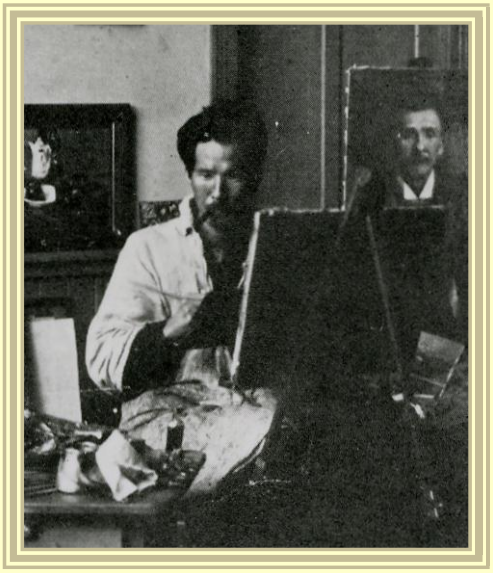


# 中村 彝 NAKAMURA, Tsune

1887（明治 20）年 7 月 3 日 ― 1924（大正 13）年 12 月 24 日

1887（明治 20）年 7 月 3 日、旧水戸藩士の父 中村順正、母 よしの三男として、茨城県水戸市に生まれました。

11 歳のときに母親を亡くし、その年、一家で長男の住む東京に移り住みます。1901 年、軍人を志し名古屋陸軍地方幼年学校に入学し、1904 年に卒業。同年、東京中央陸軍幼年学校に移りましたが、胸部疾患に罹っていたことから療養を勧められ、退校しました。その後 は療養しながらスケッチをしたり、水彩画を描くようになります。

1906 年に本郷菊坂にあった白馬会第二研究所で学び、『洋画講義録』の懸賞絵画展にも応募して水彩画が 1 等賞に輝いています。同年秋、赤坂溜池の白馬会研究所に移った彝 は、生涯の友となる中原悌二郎や、鶴田吾郎らに会うことになりました。

1907 年、中原の後を追って白馬会研究所から太平洋画会研究所に移り、中村不折や満谷国四郎の指導を受けました。画面は、印象派を連想させる明るい光の表現を特徴としながら力強さを感じさせるもので、1909 年の太平洋画会展で奨励賞を受賞、第 3 回文展で入選しました。

1911 年、結婚した柳敬助の後、新宿中村屋の裏のアトリエを譲り受け、制作活動を行いました。病気の彝を献身的に看病した、相馬愛蔵と黒光の長女 俊子を はじめとする相馬家の人々を描いた肖像画の数々 はこの時期に描かれています。

1916（大正 5）年、下落合にアトリエを構えて、その後 は、このアトリエでレンブラントやセザンヌ、ルノワールを研究しながら制作活動を行いました。1920 年第 2 回帝国美術院展覧会に、ロシアの盲目の作家 ワシリー・エロシェンコの肖像画を出品。高い評価を得、現在、重要文化財に指定されています。この作品 は、1922 年にパリのグラン・パレで開催された日本美術展覧会にも出品されました。

闘病生活を送りながら優れた作品を生み出した彝でしたが、1924 年 12 月 24 日 37 歳で死去しました。